

学校番号	17	学校名	静岡南部特別支援学校	校長名	高田 宗享
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況				評価	成果と課題
			A	B	C	D		
ア	生活年齢、 学びの積み 重ねを大切 にした系統 性のある教 育課程の編 成	生活年齢、発達段階を 踏まえ指導している	A	B	C	D	<b>A</b> 3.5	校外学習の系統性について協議 を重ね、系統性のある小中校外 学習一覧を作成することができ た。
			14	11	0	0		
			AB : 100%					
		学びの連続性を意識 し、学年や学部を超え て系統的に学習計画 を立てている	A	B	C	D	<b>B</b> 3.4	年間指導計画を基に、学部ごと に関連している内容やねらいにつ いて確認し、学部で共有するこ とができた。
			12	12	1	0		
			AB : 96%					
日常的に年間指導計 画を活用している	A	B	C	D	<b>A</b> 3.6	年間指導計画を定期的に見直 し、必要に応じた計画の変更を 行ったことで、児童生徒に良い 学習が積み上げられるようにな ってきた。		
	16	9	0	0				
	AB : 100%							
学習指導要領に基づ き、目標設定や学習評 価をしている	A	B	C	D	<b>B</b> 3.4	学習指導要領の指導段階につ いて検討し、実態と段階の整合 性について確認した。個別の指 導計画にも、学習指導要領の段 階を記入し目標設定することが できた。		
	10	15	0	0				
	AB : 100%							
将来像をイメージし、 進路指導を行ってい る	A	B	C	D	<b>B</b> 3.4	教職員へ福祉や進路に関する冊 子等の共有したい箇所に付箋を 付け回覧したことで、情報共有 がすすんだ。		
	10	15	0	0				
	AB : 100%							
保護者にとってわか りやすい進路指導や 参考になる進路情報 を伝えている	A	B	C	D	<b>B</b> 3.2	進路講演会の実施や進路だより の発行をとおし、中学部卒業後 の流れや今行っておきたいこと 等について情報提供を行った。		
	6	19	0	0				
	AB : 100%							
イ	的確な実態 把握に基づ き「何がで きるように なるか」を 目指した授 業実践	「何ができるように なるか」（将来像）を イメージし、授業づく りをしている	A	B	C	D	<b>A</b> 3.5	指導案や単元カードに将来像を 分かるように記入し、根拠に基 づいた授業づくりを目指すこと ができた。
			14	11	0	0		
			AB : 100%					
		チームで児童生徒の 実態や目標を共通理 解している	A	B	C	D	<b>A</b> 3.7	講演会や学校コンサルを行った ことで、チームでの授業づくりに 共通のアセスメントツールを 活用できるようになった。
			18	7	0	0		
			AB : 100%					

様式第3号

		児童生徒や保護者が願う将来像に応じた授業を実践している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.4	「何ができるようになるか（将来像）」について個別面談等で保護者と情報共有し、イメージしたものを分かるように記入し授業実践を行うことができた。
		11	14	0	0	AB : 100%			
		学びを支える教材教具及び補助具(姿勢保持補助、代替コミュニケーションツール等)を指導に活かしている	A	B	C	D	<b>A</b>	3.6	校内の学習会やハンドブック作成や、外部講師による研修会を実施し、指導に取り入れることができた。
16	9	0	0	AB : 100%					
		I C T機器を授業で活用し、主体的な学びを促している	A	B	C	D	<b>A</b>	3.6	I C T機器の活用方法について学習会を行ったことで指導に活かす機会が増えた。今後は、活用事例を紹介できるようにしていきたい。
16	9	0	0	AB : 100%					
ウ	教職員が主体的に語り合って取り組む授業改善や業務改善の推進	学部を超えて授業について語り合っている	A	B	C	D	<b>B</b>	3.4	希望制のチーム研修を行い、授業づくりについて、学部を超えて児童生徒の実態や授業について語り合うことができた。
		12	12	1	0	AB : 96%			
		小グループで業務改善について語り合い、できることを見つけている	A	B	C	D	<b>A</b>	3.6	業務改善について語り合う時間を設定することはなかったが、それぞれの仕事等について学部内で日常的に話がされていた。
		17	6	2	0	AB : 92%			
全教職員が時間外勤務月 45 時間以内、年 360 時間以内で勤務している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.2	時間外勤務を行うことが減り、月の平均施錠時間は昨年度に比べ早くなっている。		
8	15	2	0	AB : 92%					
		マイ定時退勤日を設定し、実行している。	A	B	C	D	<b>B</b>	3.4	学部ごとマイ定時退勤日を一覧表にし、見える形で掲示した。部主事を中心に定時退勤日に声を掛け合った。
14	8	3	0	AB : 88%					
エ	清潔で衛生的な安心して学べる学習環境づくりの推進	常に状況に応じた感染対策をしている	A	B	C	D	<b>A</b>	3.8	感染症が流行している時期には全体の打ち合わせで注意喚起を行い対策することができた。引き続き基本的な感染症対策を実施していく。
		20	5	0	0	AB : 100%			
		危険箇所等を見つけた際、そのままにせず、迅速に改善している	A	B	C	D	<b>A</b>	3.8	安全点検だけでなく日常的に危険箇所について報告し、事務室と連携して対応することができた。
21	4	0	0	AB : 100%					
		児童生徒や保護者が安心できる学習環境を整備している	A	B	C	D	<b>A</b>	3.7	安全点検を複数の目で確認するように変更した。物の整理や修繕など環境整備をすすめることができた。
18	7	0	0	AB : 100%					

様式第3号

		施設に不良個所が生じた際、迅速に修繕している	A	B	C	D	<b>A</b> 3.6	業者対応の修繕には時間が掛かるが、報告後すぐに応急処置をしたり対応をすすめたりすることができた。
		15	10	0	0	AB : 100%		
		物品の在庫状況を常に確認し、計画的に整備している	A	B	C	D	<b>B</b> 3.4	在庫状況を定期的を確認し、物品の在庫を保つことができた。また、物品購入依頼にも迅速に対応することができた。
11	14	0	0	AB : 100%				
		ICTを活用し、静岡視覚特別支援学校と情報共有している	A	B	C	D	<b>C</b> 2.8	ICTを活用することは難しかったが、視覚特別支援学校とは常に情報共有をしながら教育活動を行うことができた。
		2	17	6	0	AB : 76%		
		オ	学校安全、防災、防犯体制見直し、共通理解、教職員の主体性強化	緊急時の自分の役割を理解し、場に応じた判断ができている	A	B	C	D
9	16			0	0	AB : 100%		
隣接施設や静岡視覚特別支援学校と連携し、安全対策がとれている	A			B	C	D	<b>B</b> 3.2	合同の避難訓練を実施し、お互いに安全対策について知ることができた。ヒヤリハット事例の蓄積をすすめていきたい。
7	18	0	0	AB : 100%				
カ	児童生徒、教職員が自己や仲間を理解し、互いを認め合い、大切にしている教育の充実	児童生徒が対人関係や人権等に関する悩みゼロで学校生活を過ごしている	A	B	C	D	<b>B</b> 3.4	全校集会やムービーフェスを通して自分や友達の良さを知ることができた。児童生徒の対人関係や人権に対する悩みはでてきていない。
		11	14	0	0	AB : 100%		
		教職員が高い人権意識をもって児童生徒や同僚に接している	A	B	C	D	<b>B</b> 3.2	校内人権研修を定期的に行うことで教職員の人権に対する意識を高めることができた。日常的に意識できる呼び掛けの工夫をしていきたい。
7	16	2	0	AB : 92%				
キ	地域、関係機関、保護者と連携した体験的学習や表現活動の充実	地域の人材や資源を活用している	A	B	C	D	<b>A</b> 3.5	児童生徒が校外へ出掛け、地域の店舗や施設を利用したり、外部講師を迎えた授業を実施したりすることができた。
		13	12	0	0	AB : 100%		
		学校のことを知る人が増え、つながりが広がっている	A	B	C	D	<b>A</b> 3.6	なんぶっことボッチャでは、地域の方と児童生徒が直接関わることでお互いのことを知ることができた。
17	17	1	0	AB : 96%				
		リハビリ見学が日々の授業に活かされている	A	B	C	D	<b>A</b> 3.6	リハビリ見学や研修をとおしてお互いに情報交換をしたり相談したりすることができるようになった。
		15	10	0	0	AB : 100%		

様式第3号

		学校が地域に貢献できることは何かを模索し、実践できている	A	B	C	D	<b>B</b>	3.2	教職員が地域の事業所に見学に行き、一緒にできることを考える機会をもった。今後、学校ができることを実現できるようにしていく。
		8	16	1	0				
		AB : 96%							
		保護者が学習の様子がよくわかると評価している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.3	保護者からはお便りや面談から学習の様子がよくわかると評価をいただいた。今後も COC00 を活用した学習の様子の発信を続けていく。
8	17	0	0						
AB : 100%									
		より多くの保護者が学校行事に参加している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.0	学校行事を週末に実施したり動画配信を行ったりして参加しやすい環境を設定した。より多くの保護者に参加してもらえるよう通知の時期や仕方を工夫する
		4	18	3	0				
		AB : 92%							
		訪問教育保護者がスクーリングやリモート学習により人との関わりが広がったと評価している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.4	スクーリングやリモート学習をとおして友達との関わりの中での表出が多くみられた。保護者からもよい評価をいただいている。
12	13	0	0						
AB : 100%									
ク	共に学び、共に育つ交流及び共同学習の推進	方法や内容を工夫し、交流教育を持続している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.4	直接交流では、事前に養護教諭を通じて感染症等に関する情報交換し、交流を行うことができた。作品展示や作品の交換やオンラインの交流など間接交流も充実させることができた。
		14	9	2	0				
		AB : 92%							
		双方に成果の残る学校間交流を実施している	A	B	C	D	<b>B</b>	3.2	学校間交流では、児童生徒が直接かかわることでお互いに理解をすすめることができた。
8	14	3	0						
AB : 88%									
ケ	静岡視覚特別支援学校との連携・協力による効果的な教育活動の模索、検討	共通ルールに基づき、施設を共有できている	A	B	C	D	<b>A</b>	3.6	事前に特別教室の使用割当や器具・道具等の使用ルールを確認したことで、大きな混乱なく施設を共有することができた。
		15	10	0	0				
		100%							
		日常的にかかわり、互いを認め合いながら共に学んでいる	A	B	C	D	<b>B</b>	3.2	全校の交流会や小学部の昼休み交流など日常的に関わりながら共に学ぶことができている。
8	16	1	0						
AB : 96%									